

平成 20 年度第 1 回鎌倉食育推進会議 会議録

日時：平成 20 年 7 月 7 日（月） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分

場所：鎌倉市市役所 本庁舎 全員協議会室

出席者：< 委員 > 安齋委員、大竹委員、柿澤委員、塚田委員、富田委員、中村委員
藤本委員、牧田委員、三浦委員、柳下委員、矢野委員

< 職員等 > 食育連絡協議会（庁内）

山本福祉政策課長、奈須こども課長、大澤学務課長

飯尾教育指導課長、糸教育センター長、島崎生涯学習課長

山田青少年課長

事務局（部長及び市民健康課）

石井健康福祉部長、岡部市民健康課長、井上課長補佐

河合係長、内田保健師、深谷管理栄養士

会議次第に沿って推進会議を開催するにあたり、市長から挨拶があった。

（市長挨拶）

皆様には、日頃より本市行政にご理解、ご協力をいただきましてありがとうございます。
また、このたびは、鎌倉食育推進会議委員をお引き受けいただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。

鎌倉食育推進会議の開催にあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

近年、生活形態の変化に伴い、食生活をめぐる環境も大きく変化しました。

食卓にのぼる食品の多くを、海外からの輸入に大きく依存し、伝統的な食文化の伝承も危ぶまれています。

また、好きなものを好きなだけ好きな時に手に入れることができる便利な今日においては、肥満や生活習慣病の増加、家族そろって食事を取る機会の減少、孤食によるコミュニケーション力の低下など、様々な問題が生じてきています。

鎌倉市においても大きな問題です。

平成 20 年 3 月に策定しました「鎌倉食育推進計画」は、平成 18 年 3 月に策定された鎌倉市健康福祉プランの将来目標である「健やかで心豊かに暮らせるまち」をゴールとしています。

「かまくら育ちを“いただきます”」をコンセプトに、3つの「目指す姿」として

「自分の食を責任もって選ぶことができる（食の自立）」

「食をとおして人とつながることができる（共食・共育）」

「豊かな環境づくりに参加することができる（共生・共存）」
の実現をとおり、基本理念である「食をとおりて豊かな環境、健やかな心身を地域で育むまちづくり」を目指すため、一人ひとりが食に関する様々な問題を自分の問題として考え、この推進計画の目標の実現に向けて行動して欲しいという思いから、市民、生産者、製造業者、流通業者、教育関係、行政などそれぞれが取り組む行動目標を掲げました。

この推進計画をより実行性のあるものにしていくために、食に関わる市民や団体の皆様とともに、推進計画の進捗状況を把握点検し、計画の見直し、次期目標の設定など協議しながら本市の食育を推進してまいりたいと考えております。

そのため、このたび「鎌倉食育推進会議」を立ち上げることとなりました。

委員のみなさまにおかれましては、今後の鎌倉の食育が推進・発展できますよう是非、活発なご意見、ご提案を下さいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回の推進会議委員の中には、鎌倉食育推進計画策定委員会においてご尽力いただいた方々が沢山いらっしゃると思っています。

引き続きご協力いただけることに感謝し、お礼申し上げまして私の挨拶とさせていただきます。

事務局の議事進行により推進会議が開催され、はじめに会長及び副会長が選出され、その後会長の進行により、推進会議及び会議録の公開等について委員に諮った。

決定事項は次のとおり。

（決定事項）

- ・会長 中村 丁次氏 副会長 塚田 信氏
- ・推進会議は公開とし、傍聴者については広報かまくら及び市民健康課ホームページで募集する。
- ・会議録は公開とし、委員名は記載し発言は要約しないこととする。

会長 では始めたいと思います。議題 の鎌倉食育推進計画の行動計画案についてですが、まず事務局から鎌倉食育推進計画について説明をお願いいたします。

事務局 まず、お手元にごございますきゅうりなのですが、安齋委員がおつくりになっている鎌倉ブランド野菜です。こういうマークが付いている(旗)などがある。鎌倉の下馬にあります農協連即売所ですとか市内のスーパーなど、この旗があるところで売られているものでございます。これから説明をさせていただきますが、ぜひ召し上がりながらお聞きください。

会長 どうぞ説明が長くなりそうなので。

事務局 どうぞお召し上がりください。まず、食育推進計画について説明させていただきますが、緑色の推進計画の冊子お持ちいただいていますでしょうか。今日お

持ちでない方いらっしゃいますでしょうか。ではお手元に推進計画の資料がございますけれども、表紙を含めまして4枚目のA3版横のページをお開きください、説明させていただきます。

平成17年度の食育基本法の制定を受け、鎌倉市では本市の食育を推進するにあたり、食育の推進を進めるための共通指針を持つため、鎌倉食育推進計画を策定することといたしました。平成18年度から市の関係課による「鎌倉市食育連絡協議会」での検討を始め、また、市民および生産者、製造業者、事業者、教育関係者などの関係団体との懇談会を数回開催し、鎌倉市における食の現状と課題、問題点等について共通認識を持ちました。

平成19年7月から学識経験者並びに生産者、事業者、教育関係者などの関係団体および市民で組織した「鎌倉食育推進計画策定委員会」を設置し、共通指針となる「鎌倉食育推進計画」の策定に向けて協議を重ねてまいり、このほど平成20年3月に「鎌倉食育推進計画」を策定いたしました。この計画は、平成18年3月に策定されました鎌倉市健康福祉プランの将来目標である「健やかで心豊かに暮らせるまち」をゴールとしています。3つの「目指す姿」として「自分の食を責任もって選ぶことができる（食の自立）」、「食を通して人とつながることができる（共食・共育）」、「豊かな環境づくりに参加することができる（共生・共存）」の実現を通し、基本理念の「食をとおして豊かな環境、健やかな心身を地域で育むまちづくり」を目指しています。そしてそれらを実現するために、左側に掲げている現状と課題を踏まえて、「食をとおした健康づくり」から「食からはじめる環境づくり」までの4つの取組みの柱と、それらを包括する「食でつなぐネットワークづくり」を5つの取組みの柱とし、これらがバランスよく推進されていく姿を「かまくら育ちを“いただきます”」というコンセプトで表しています。

なお、この計画の期間は平成20年度から24年度までの5年間としており、情勢変化等により見直しが必要となった場合は、計画期間内であっても必要な見直しを行うものとしています。この中に「かまくら育ちを“いただきます”」というところで、かまくら育ちとは何でしょう、というのが良く聞かれるところで、実はこちらの推進計画6ページ、下から6行目、「かまくら育ちとは」というところに書いて紹介させていただいています。

以上で説明を終わります。

- 会 長 ありがとうございます。これについて何かご質問・ご意見はありますか。なければ引き続き、本日の議題の「行動計画（案）」について入ります。事務局からこれについて説明をお願いします。
- 事務局 ご説明いたします。鎌倉食育計画の9ページA3版横の図をご覧ください。この推進計画は、先ほどご説明しました5つの取組みの柱をバランスよく推進し

ていくために、食育を一人一人が自分の問題として考え、目標の実現に向けて行動して欲しいという思いから、市民・生産者・製造業者・流通業者・教育関係・行政などそれぞれが取り組む行動目標を掲げていることが特徴です。左側 2 列目の行動目標欄をご覧ください。「生活リズムをととのえる」から下へ進み「地域の“わ”をつなぎ、地域の“わ”を広げる」までの 7 項目は全体の行動目標として掲げ、市民・事業者・行政等がそれぞれ具体的な行動目標を示し、実現に向けて実施していきます。例えば市民についてですが、1 番目の取組みの柱「食をとおした健康づくり」において、全体の行動目標である「生活リズムをととのえる」を実現する為に“早寝・早起き・朝ごはん”の中で自分ができるところから取り組んでいただきます。

朝ごはんを抜いている人は、朝必ず何か口にすることを、また既にできている人は現状を継続するのの一つですし、朝ごはんの質をより良くすることも目標の一つです。事業者の方々においては、自宅で食事を摂る事ができない人のために、バランスのよい“朝ごはん”の場を提供することを目標として、生産者・製造業者・流通業・販売業者等多種多様ですが、食育を推進するためにそれぞれ取り組んでいただければと思います。その取組みとして、A 社と B 社で協同事業を行うというのも一つの考えだと思っています。

只今、行動目標の「生活リズムをととのえる」を例にとりご説明させていただきましたが、以下表記されている行動目標各項目について、それぞれがそれぞれの具体的な目標を示していただくものが「行動計画」となっています。

お手元にお配りしています資料 1 をご覧ください。こちらは、鎌倉市の関係各課が取り組んでいく為に、現在策定作業をしている「行動目標(案)」です。ご参考までにお配りしました。市の取組みを少しご紹介させていただきますと、緑の表紙の「食育カレッジ 2008」をご覧ください。こちらは、市の関係各課により開催する食に関する講座や取組みについて、「食育カレッジ」として 1 冊にまとめ、市民に対し周知を行っています。

また、市民健康課では地域で食育を支える力として、推進計画に協力してくれる個人・団体の緩やかなネットワークである「かまくら食育クラブ」の立ち上げに協力し、活動のサポートを行っています。今、スライドをセットしているのですが、そちらで少し市民健康課で撮影しました写真がいくつかございますので、委員の方見にくいかと思うのですが、少しこちらの方をご覧ください。いただければと思います。(スライド紹介)

鎌倉市で平成 19 年度と 20 年度に取り組みをさせていただいています事を少々ご紹介させていただきたいと思います。実際には色々な方のお力をお借りしまして、もっとこれ以上のことをしているのかと思うのですが、今日は写真を交えましてお話しさせていただきます。

まず平成 19 年度の地域等との繋がりとしまして大きなものを四つほど。手広中祭、手広中学校での文化祭に食育と健康づくりに関するブースを設けさせていただいて、アピールいたしました。それから岩瀬保育園なのですが、食育センターの方にご協力いただきまして、そちらでも健康づくり等のお話をさせていただいています。それからイトーヨーカドーで食育クラブ員が催し物「地域セール」の中で鎌倉の伝統食のけんちん汁の紹介を、それから収穫まつりといって昨年 11 月に大船中学校の会場をお借りしまして、産業振興課で実施しております収穫まつりの中で庁内各課、いくつかの課がコラボレーションを組みまして健康づくりから環境づくりといったところで取り組みを行いました。

これが最初に挙がっていました手広中祭での中学校のものです。このように女子生徒もいれば、次のスライドでは男子生徒も何か健康に関するものを、こういった訳で食べるとよいですよ、と話すとき意外に興味を持って来ていただいたりして、ちょっとしたイベントの時にこうして健康づくりに関する話をしていくのもいいのかな、という事でご協力をいただきました。ご近所のお母さん方、PTA の方等もみえていましたので、食と生活リズムの関係が大切だということでも少し目にふれるような展示もさせていただいています。

こちらが平成 17 年度に市民健康課と衛生協議会に協力をいただきまして、「健康づくり意識調査」の結果を展示しました。鎌倉市の中学生でそんなに特段目立って肥満の子がいるとか、割合が高いとかといった事はなかったのですが、でもやはり自分が今この辺にいるのかな、という事を知ってもらうのも一つという事でこういった展示もさせていただきました。

こちらは岩瀬保育園の食育フェスタです。これは私どもが開催したわけではなくて、保育園の方で実際に食べ物と楽しく付き合う、というような、食育への取り組みを長いことされているということで、私ども色々な勉強をさせていただいています。その食育フェスタの中で、園児たちが先生と一緒にこの日に向けて作った作品が色々展示されていました。この中でも市で健康づくりコーナーを開かせていただきました。こちらが測定結果の説明の方です。それから、続きましてこちらでは鎌倉市で健康に関する調査をした時に、乳癌の発症率が他と比べて高いかな、ということで、乳癌のモデルなのですが、乳癌の発症と脂肪の多い食事との関連性が高いですよ、食の形態の変化が健康にも及ぼすものがありますという事で、こちらの方も関連付けてお話をさせていただきました。

こちらは収穫まつりということで、収穫まつりにいきなりこんな一角を作らせていただいたのですが、やっぱり食を考える上で、生活の事もあつし、それから美味しく食べる為には健康も考えなくてはならないし、それから食べ物が美味しく育つ為には、理由を含めて環境の事もいっぱい考えて欲しいという事

で、のぼりの方が見えにくくなっているのですが地球のマークを描きまして「からだ元気、かまくら元気、ちきゅう元気」と題しまして、市民健康課をはじめとし、環境政策課・資源循環課、それと消防の方とも協力をいたしまして、AED体験コーナーですとか、食育クラブ員のお力をお借りしまして、その時に収穫されたにんじん料理の試食等も行いました。そして環境の方も考えてくださいという事で、エコバッグなども配布させていただきました。

平成 20 年度になりましてこういった地域の方との繋がりが段々増えてきた、それから密になってきたという事で、また新たな取り組みとしまして今度は食育クラブ員の三浦委員からお話がありましたが、現場で食育を推進する方たちを応援したいという事で、今年は食育クラブの活動として「食育ステーション事業」というものを実施しました。簡単にいうと地域でご自分の歩いていける範囲内で食に関して相談できるところ、考えられるところがあるといいね、という事で新しく植木にできました「鎌倉友の会」の「友の家」を、こちらも食育クラブ員の関係で会場お借りすることができまして、写真では妊婦さんがいらっしやらないのですが、妊婦さんと離乳食中期のお子さんを持つお母さん方が触れ合える場所を作りましょうという事で、中期離乳食教室とを兼ねたものを開催し、この日は 7 ヶ月のお子さんをお持ちの方が 3 名ほど集まっていたきまして、2 歳 7 ヶ月のお子さんをお持ちの方も参加いただきました。

この日はおにぎりを作りましたので、お姉ちゃんも一緒に参加しまして一つのテーブルを囲んで食事作りの体験を積極的にしていただきました。それから食育クラブ員と一緒に本格的な卵焼きを焼き美味しいものを食べさせたい、という事で非常にクラブ員もがんばっていただきまして、これができたものです。おにぎり 3 品、色々な混ぜご飯のおにぎりそれから本格的な出汁を取りましたお味噌汁、それと卵焼き、菜っ葉のおひたしとにんじんの寒天、あと後ろの方にも実は色々な余った食材もこんな風に転換できますよ、という事で紹介メニューも載せさせていただきます。

今、お母さんが食べたお食事の中から、野菜を茹でたら取り出してここから離乳食にも繋げていけます。是非お母さんと一緒に食べましょう、と話していただきました。こういった感じで食育クラブ員と、それからこの日は、クラブ員でもある岩瀬保育園の先生も一緒に、育児について話しながらお母さんとお食事をしていただいています。

つづきまして、鎌倉食育推進計画の紹介という事で食育クラブ員に頑張っているもの、これが食育推進計画の一環でもあるのですという事を PR していこうという事で、ちょうど今日終わってしまったのですが、6 月 30 日から 7 月 7 日まで鎌倉駅地下道の「ギャラリー 50」で、食育推進計画の策定から、実際こういうものですよ、という事を紹介させていただきました。パネル 5 面に

わたる意外と大がかりなものになってしまいましたが、このようなかたちで飾らせていただいています。

1枚目は計画策定までの道のりという事で、昨年委員の方達に関わっていただき、今日までこれだけの苦勞をして計画をたてましたという辺りを書かせていただいて、それから平成18年度・19年度と市民の方との懇談会等を通しまして積み上げてきた皆様からの意見がありますのでこちらの方をちょっとご紹介させていただきます。こちらがこのご意見を受け継ぎ計画のコンセプトになります、「かまくら育ちを“いただきます”」という事で、少し楽しく皆さんに見てもらおう、という事でこういったパネルを作成しまして、具体的には「では何をすればいいのかしら」というところのご説明をさせていただいています。そして最後に地域でこうして活動してくれているかまくら食育クラブ員にお願いしている事をご紹介させていただきました。

もう一つ、私たちの庁内各課の連携もありました。昨年1年間「食育ってなぁに？」と題しまして、広報かまくらで特集を組み、12か月にわたり各課で、取り組んできた内容をこの形で紹介させていただきました。

次に地域の団体とのコラボレーションという事で。

これはどこだかお分かりになりますでしょうか。

鎌倉市内で、鎌倉中央公園の畑というか田んぼですね、NPO法人山崎・谷戸の会の方がこの畑・田んぼを維持されております。その活動の中で、実際守っていきこうという事でやっていただいております、こちらに「これが鎌倉の食文化、食の原点だろう」という事で、今年度は「かまくら食育クラブ員養成講座」という、講座修了後は、かまくら食育クラブ員として地域で皆様を支えていただく方たちを対象とする講座の中で、食の原点の体験をしていただくという事で中央公園に一緒に行きました。まず作業に取り掛かり、草の中を割って入って、この日はたのくる豆の種植えで、まず草むしり、それから植える、という形で土を起こして畝を作りまして、皆さんと一緒に種撒きをして、そして道具の後片付けもやっぱり大事ですよ、というところまで一緒に体験をしていただきました。こういった講座を修了いたしまして、実際に活動されている食育クラブ員が、もう一つイトーヨーカドー地域セールへの参加という事で、昨年からイトーヨーカドーにご協力をいただきまして、食育クラブ員のPR活動と一緒に鎌倉の味、けんちん汁も紹介しましょう、という事で、2年目続けて参加させていただきました。

看板は先程のものを飾らせていただいて、イトーヨーカドーさんのご協力で鎌倉の味けんちん汁を作ってくださいました。ただPRは食育クラブ員がやりましょう、という事で、お買い物にいらした方に1日目が100食、2日目が150食ほど配らせていただいたということです。お子様には初めての味になるので

しょうか、ではおばあちゃんと一緒に食べてみましょう、という事で大きな口を開けて食べていただきました。こういった伝統の食も、なかなか家族の中で伝わる事も少ないのかな、という事で、これから地域に出て伝える方たちにはぜひ体験しておいていただきたいという事で、このクラブ員養成講座の中でも一つこの点を入れさせていただきます。まず味覚体験という事をさせていただいて、ちょっと分かりにくいのですが、3つほど真ん中にお椀が並んでいる、これはかまくら食育クラブ員から3つそれぞれ違うレシピを出していただきまして、低脂肪バージョン・お子さんに食べやすいようにしたもの・あとはいわゆる伝統的なごま油で炒めて、というようなものと、3つ味わっていただいて、味の感じ方も違いますね、という事をまず今年を受講生の方には味から入っていただいて、そんな知識を支えていただくのがクラブ員さん達で、昨年卒業された方も含めまして皆様けんちん汁の調理を手伝ってもいいよと、手を挙げていただきまして、こういった講座も開くことができました。以上です。

ありがとうございました。

事務局 今ほとんど市民健康課の活動の紹介になってしまいましたけども、食育カリキュラム 2008 には各課のこれから企画しているイベントなど載せておりますので、これから市民の方に参加していただきたいと思います。また市民健康課の食育クラブ員の養成などサポートしてまいります。

こういうのも市における行動計画の一つとなっておりますので、このように行動計画を示すということは市内の各業種事業者、行政だけでなく鎌倉食育推進計画の14ページをご覧いただきたいのですが、食育推進体制と書いてありまして、丸のような形になっているものがございます。そちらに色々な団体が載っているかと思えますけれども、それぞれがそれぞれに行動計画を立ててやっていただく事によって一人一人の意識が高まり、鎌倉の食育の推進がなされる、という事になっておりますので、鎌倉の食育を推進するという事を目的として行動計画を策定していただきたいと考えております。

会長 どうもありがとうございました。大変多くの内容を説明いただきました。ではここで鎌倉食育推進会議の目的とスケジュール等について、引き続き説明のほどお願いいたします。

事務局 ではお手元にお配りしておりますクリーム色の用紙で、食育事業推進スケジュールを確認します。本日が第1回目となります。この推進会議は年2回の開催としており、次回開催は当初のスケジュール上では1月21日水曜日となっておりますが、他にも4日ほど候補日をご用意させていただいておりますので、後ほど調整させていただきたいと思います。

次に推進会議の目的についてですけれども、先ほど策定いたしました鎌倉食育推進計画の概要とこの推進計画の特徴である、本市の食育を推進していく為

の行動目標についてご説明させていただきました。この推進会議の役割は各立場からの代表として、作成した推進計画の進捗状況を把握・点検し、進捗状況に応じた計画の見直しについてご意見をいただく事、また先程もありました通り、市民・各事業者の方々がそれぞれに取組を実行していただく事で、鎌倉の食育を推進していく為に市民と事業者・業種同士の事業者が共同・協力し新しい動きを生み出していただくための場、PRの場にもなる事をこの会議は担っていただいでいきたいと考えております。

会 長 ありがとうございます。以上行動計画及びスケジュール等についてご説明があったのですが、ここでまとめてご質問やご意見を伺いたいと思います。何かございますでしょうか。

柿澤委員 柿澤と申します。先ほどのスライドの中で、食育クラブの方ですか、お聞きしたいのですが、けんちん汁を取り上げられていましたよね。昨年までの策定委員会でもどういう訳か、けんちん汁というのが話題になりまして、何故そのけんちん汁というのが、まあ鎌倉の伝統のある食事という事であるのでしょうか。我々飲食店の立場から見ますと、そうそう普及しているものではないわけですが、家庭でもそうだと思うのですが。それをこれから普及させよう、と思ってそうしたのか、それとも鎌倉らしい、という事で採り上げたのか、この辺を。何故けんちん汁なのかと。

三浦委員 わたくし共、かまくら食育クラブでけんちん汁を推進していこうという、今のところそれはございません。まず先に断っておきます。また、けんちん汁を推進していこう、という話し合いはまだ持たれておりません。今後その可能性がゼロかと申しましたらそれは分かりませんが、とりあえず鎌倉らしい食事をという事があったという事と、食材が豊富に季節に応じて何でもいからお汁にして飲める、という単純な事だけで、けんちん汁という事でヨーカドーさんに去年と今年という事で。実はレシピを提供した者として、今年も、という考えがあり去年したという事ではなく、たまたま単発的に作りまして。

それで他のところにも、という事で。それぞれ個々にやっているもので、まだ実際のところ一緒に話し合いこの事では何を、というような形ではまだ進んではおりません。

会 長 はい、ありがとうございます。他にございますか。

富田委員 昨年の計画の段階で、鎌倉の郷土料理というのは何だろうという話が出ました。その時に鎌倉の郷土料理というのは委員の皆様も思いあたらなく、それでこのけんちん汁というのに落ち着いたのだと思ったのですが、いかがでしょうか。

会 長 どうですか。特にありませんか。いきなりけんちん汁の事になったのでちょっと面食らっているのですが。ご意見ございますか。推進計画の9ページの横

の表があります。これがこれから進めていく行動目標にもなるのですが、この現状値というのはどう決められたのですか。これは調査されたのですか。

事務局　こちらは、この為にわざわざ調査したものではなく、食に絡む各関係課がそれぞれ今までに調査してきているようなものがありまして、そちらの方をお借りして出させていただいています。計画の中の45ページに資料の出典一覧というものがあります。

会　長　　こういう資料からピックアップされて、数字を取られたのですね。この目標値はいつまでの、何年までの目標値になりますか。

事務局　　平成24年まで、4年後までのです。

会　長　　平成24年の値がこういう値になっていけばいいという事ですね。

事務局　　はい。

会　長　　他にご意見ございますか。17ページからの「食」を取り巻く状況というのはどういう事か。アレルギーとか相談件数だとか欠食とか朝食の摂取とか、さらに野菜の摂取状況とか。とくに鎌倉で特徴的な事とかはあるのですか。

事務局　　鎌倉では、とくに鎌倉だからこういうものがという特徴的なものは無いです。

会　長　　特に無いですか。

牧田委員　　ちょっとよろしいですか。特に無いとは思えないと思う。鎌倉とはやはり食に関して言うと高齢者が多いので、食育って言いますと富田委員が最初におっしゃられたようにもちろん幼児・学生期、そういった方達という事ではもちろんなりますけど。そういう事を含めた広い意味で全世代に、という風におっしゃられたと思いますけど、そういう意味では鎌倉はもう県下でも有数の高齢化率の高い市なので、そういう意味で若年層の孤食ではなく独居の方の孤食ですとか、高齢者の問題というのが相当出てくるとは思いますけれども。

会　長　　それに対して何か意見は、子どもだけの問題ではなくて高齢者の孤食が問題になっていまして、私共も実は、去年調べたのですが、独居で一人住まいで孤食というのは分かるのですが、家族を形成しても高齢者の孤食というのが存在するのです。だから家族がいれば共食をしているかというところではなくて、やはり家族がいながらお爺ちゃん・お婆ちゃんは早めに食べて子ども達は後から食べるというように時間がずれたり、高齢者は離れで一人黙々と食べていたりというふうな状況もあるようです。

逆に家族を形成されなければ孤食問題が解決しないのかと言うところではなくて、一人住まいでも例えば地域でみんなで集まって食事をする習慣を作っていくとか対策はあります。古くは日本には祭事とか冠婚葬祭の時が多くあり、それは地域のみんで一緒に食べているという状況だったのです。しかし、それが無くなりつつあるという事もあります。

おそらく僕もよく調べた事はないのですが、人類が誕生して、一人で黙々と

食べる人類というのは初めての人類ではないかなと思うのです。人間というのはやはり共同で物を獲得したり共同で農作業をやり、みんなで一緒に食べたのです。時には家族という単位になるし、時には地域という単位になり、一緒にシェアしながら食べたというのが人類なのです。極論を言ってしまうと、それが自殺を多くしている原因になったり、うつ病が多くなっている原因になっているのではないかと学者もいます。今おっしゃったように、それは重要な問題なのではないでしょうか。

他にご意見ございますか。

牧田委員 質問なのですけれども、9ページの現状値のところ、これはどこから言っているのかというところがあって。中食・外食と上手く付き合うところの現状値で、食品栄養成分表示等を参考にするという方が青年期で60%、壮年期は59.4%、これすごく高いですね。これは成分表示というのは例えば物を買う時に表示を確認しますか、というそういう意味なのでしょうか。

会 長 どういう調査か覚えてらっしゃいますか。

事務局 これは平成17年度に行われました、市民の健康づくりに関する意識調査というものの中から取らせていただきました。比較のために使用している国民健康栄養調査と、質問項目は異なるのですが、この推進計画の23ページ資料7というところに載っていますように「外食メニューや弁当を選ぶ際に栄養成分表示を参考にしますか」というような形で取らせていただきました。「いつも」参考にする人から「時々」参考にする人まで回答に含んでいますので、意識の低めの人まで含まれるという意味では、「参考にする」の比率が高くなるかもしれません。また、こういった調査に回答をしていただいた方ですので、もともと健康に関する意識が高いことが影響している可能性も否定できないと思います。

会 長 多少バイアスがかかっているかも分からないですね。他にございますか。無ければ次の議題の「鎌倉食育推進計画リーフレット」に移りたいと思いますが、事務局の方からご説明をお願いします。

事務局 ではリーフレットについて説明いたします。本来、本編の冊子と同時に作成するものなのですけれども、こちらの推進計画が、平成19年度末、本当にギリギリにできましたので、今リーフレットの作成準備を行っているところで、このリーフレットにつきましては、市民が手にした時に鎌倉の食育がどういった目的の元に推進されているものであるのか。また手にした人が自分はこの取り組みをしてみようと、楽しめるものでありたいと考えています。

資料2をご覧ください。こちらは先日、推進計画と一緒に委員の皆様へ（案）として送らせていただいた後、事務局の方でももう少し何とかならないかという事で、再度内容を検討して作成したものです。こちら合わせてご覧ください

い。

資料 2 の方なのですけれども、最初に送らせていただいたものところがちがうのかということなのですけれども、まずこのリーフレットを作るにあたり、鎌倉食育推進計画はそれぞれが取り組む行動目標を掲げている事が特徴ですので、この計画の骨子であります、最初の方に説明しました推進計画の中の最初の A3 と次の A3 の 2 ページ分、15 ページにあります推進体制についてはこちらが鎌倉食育計画の骨子ですので、この 3 つの表に書かれているものは基本的にしたいと考えています。この計画の主体は一人一人ですので、その骨子と目標を自由に書き込める覧を設けています。

資料 2 と最初のお配りしたものの変更点というのが、まず記載内容については、今申し上げました骨子の部分もありますので、内容についてはほとんど変更はありません。ただ見せ方としてどこを先に持ってきた方がいいのかという事で、配置を変えています。資料 2 の冊子については、リーフレットを手にとった時にはまず表紙を見ます。その後何だろうと大抵後ろを見る事が多いので、鎌倉の食育に興味を持っていただく為に、最初の(案)の内側左にありました、「食育って何だろう」というものを後ろ表紙にしました。中を開いてみると、最初の 2 ページは先程申し上げました、推進計画の骨子の部分を掲載しました。

右側のページの推進体制なのですけれども、最初の(案)の方がかなり略図になっていますが、今回は本編に載っている図で、縦横の縮尺がちょっと違うだけ、同じ図なのです。こちらの方はなぜ戻したかと言いますと、いろいろな団体が存在していて、食育を推進していく為には、関係していくことを表現した図ですので、略図にしてしまうとあまり意味を成さないのではないかという事で、本編にありますように細かい文章表示にしました。

今度またもう一度グラフのところを見ていただきますと、この計画の特徴であります、自分で書けるといところで、書いてもらう欄を設けました。左側の現状といところにグラフになるものを書きますけれども、それが最初の案と 2 番目の案とどこが違うかと言うと 2 段目は円グラフに、一番下の段は棒グラフにという事で、グラフの表示の仕方を統一してみました。こちら辺が変更点だけで内容については、ほとんど最初の案と変更がありません。

これらの趣旨をもとにリーフレットを作成しました。記載したい情報はこれなのですけれども、実際のデザインですとかレイアウト等は業者を選定しまして、引き継いで行きたいと思えます。今お手元にあるのが白黒で何となくイメージが湧かないのですけれども、こちらは手書きですが色を付けて参りました。一つしか無いのでお返しします。

会 長 リーフレットに関して、何かご質問ご意見ございますか？

富田委員 よろしいでしょうか、事前に送っていただいた方にこういう簡単な図のもの

が付いていたのですけれども、今回これがもう無しになった、というのが私がこれを見せていただいた時に、このページが物凄く字がいっぱい詰まっていて、果たしてこれを全部読むのだろうかという疑問が凄くあったのですね。ここに「詳細」というふうに書いてありますので、ここまで細かく書かなくても、こっちでいいのかな、というふうに私自身はそう思ったので、そうなのでしょうけれども。

事務局 最初の(案)は今回資料2の方には付いていませんけれども、こちらの方は骨子。その2案だけではないのですけれども、もしその2つだったら(2)の四角で囲った部分の方がいいなと言えはそういうふうになりますので、で、実際それをもとにご意見を頂ければと。

会長 いかがですか。

大竹委員 多分私も読まないと思います。そちらの方が頭に入ってくるというか整理されている。こちら同じ事が何回も再掲みたいな形で、書かれていますけれども、枠で囲って全体に通じるところが一つの枠で、表現していただいている訳で、こちらの方が見やすいかな、とそういうふうに思います。

会長 皆さんもそう思いますか。

矢野委員 いいですか。

これは大人の読み物になってしまっている。これでは子どもは分からないのかなという気はするのですよ。たとえばキャラクターを付けるのも、子どもの興味をひく手段の一つだと思うのです。姑息かもしれませぬけれども、そういうものから一つ一つ興味を持ってもらう必要があると思うのです。

キャラクターを作る事にお金がかかるかどうかについては私は分かりませんが、そういうものがあれば、もうちょっと子どもを巻き込むか、この表紙を見たら子どもがとっつきやすいのではないですか。もしそういったものがあれば、そういったものを載せた方がいいのかなという気はしますよね、全体的にさっき言ったように大人向けになってしまっているというのを、もうちょっと脚色した方がいいのかなという気はしますよね。

会長 他にございますか。何か別に子ども用作りですか。確かに子どもは読まないですね。

事務局 実は鎌倉市の組織は、こちらの課長さん方が組織している協議会の下でのワーキングで、検討会という組織がありこれはそこから叩き上げて作ってきたリーフレットなのですけれど、一人今ちょうど子育て中のお母さんがメンバーにいまして、やはり同じような意見で、具体的に、両面で下敷きに似ているようなものでしたら冷蔵庫の脇にひっかけておいて、こうしょっちゅう見られるではないか、というようなご意見をいただいています。二つ作るのか真ん中にするのか、その辺は予算との関係もあるので。

会 長 予算の関係。確かに子どもは読まないですね。どうも貴重な意見ありがとうございます。他にございますか。

藤本委員 話が前後して元に戻るのですけれども、この推進計画の方も緻密な資料とかデータが集められ作られていて感心したのですけれども。今回このリーフレットを市民の皆さんにお配りになられるという事で、こちらの方を見せていただいている時に、特にこの9ページの数値です。先程もご質問ありましたがどこが出典になっているのか。先程ご説明ありました45ページも、やはり見る人というのは、新しい数値というのを欲しいと思う訳です。20ページ、40ページについて20年度までは勿論無理なのですけれども、40ページの18年度か19年度ぐらいの出していただきたいと思って。この45ページ一番上の例えば、「鎌倉っ子の意識と実態調査」では平成15年度のを資料として採り上げてらっしゃるのですね。

市民の方たちがこのプランとかをご覧になられた時に、本当によく調べてあると思うのですけれど、実際調査されたのは17年度となりますと、もう3年前という事になりますので。ご覧になった方々が、ちょっとこれは古いのではないのか、という印象を持たれると思うので、もし新しいものに変更おできになれるのであれば、ご検討いただきたいと思います。

会 長 いかがですか。これ以降新しいのが出ているのですか、これは最新のデータ。はい、どうぞ。

事務局 教育センターのアンケートの調査、だいたい5年ごとにやっておりますので、前は15年度にやっております。今、幼稚園・保育園・小学校・中学校にお願いしてましてデータの集計を7月に、そして今年度3月までにデータを分析してまいります。提示できることになりましたら、今おっしゃられたデータを掲載したいと思っています。

会 長 ありがとうございます、他にございますか。

大竹委員 推進体制が細かいのができたのがとても良かったと思います。新しいものが地区単位にやられている組織とか活動が期待されるものが載ったという事で、とても良かったと思います。それで、鎌倉らしさという辺りの事を強調するという事ですと、この報告書の最初のA3のページに「鎌倉らしさ」と、4つこういうふうな鎌倉なのでこういう計画を立てましたという4つの言葉が並んでいると思うのですが、市民の皆さんは、自分達はこういうふうに見られているのだ、というのがこう分ると良いのではないかというふう思ったので、こういう言葉をこの中のどこかに載せて、こういう市の特徴があるのでこういう物を作りましたという形のものにすると、より鎌倉らしさが強調されるのではないかと思います。

それともう一つは、皆さんに渡してチェックをするところがあるのですけれ

ども、市民に取り組んで欲しい事、これは一人一人が取り組む事なのですけれど、その次の欄が「食に関わる人・団体で取り組んで欲しい事」という形にここではなっているのですけれど、その下の吹き出しの所を見ると、「生産者・事業者等」になってしまい、地域活動とか色々な自主的な活動をしてらっしゃる方のところがボヤけてきてしまったかなと、自分達の活動として食育クラブに入ってらっしゃるような方々はそれはそれでそういう認識はあるでしょうけど、また違った活動をしている、全然そういうところを意識してらっしゃらない方々でも、食に関して自分達がここに当てはまるのだろうかという事が分かるようにするには、この吹き出しの中にもう少し地域活動をしてらっしゃるとか、団体と言うと大きくなってしまおうので何か一工夫するといったのかと。

言葉を付け加えると自分達の動きというのがこの中で評価できるのかなというのが見えてくるのかと思います。もう一つは、どういうふうに表現しているか私もよく分からないのですけれども、鎌倉とは今までも非常に市民活動が盛んで、それが今回の作成の特徴になっていると思うので、そういう自分達の今までの活動を大切に、それを活用しながらよりいい活動、食育に進めて行けばいいのですよ、というような事をどこかにこう表現すると、新たに何か考えて付け足していくというよりは、きちんと考え方をプラスにしたら食育になるのではないかというような、そういう事を書く自分達も取り組みやすいかなとそういうふうに思います。それが意見です。

最後に質問です。一番左のグラフの所の「老人保健報告」のところに平成12年から17年度と書いてあるのですけれど、これは合計何年度かのものですか。こちらの報告書を見るとそういう記載が。

事務局 単年度です。

会長 ありがとうございます。他にご意見ありますか。

富田委員 今のご意見伺っていて、去年作成をする時に一番時間を取ったのが鎌倉らしさとは何だろうというので、とても何度も時間を取ってきたのです。その苦労をしてあれですけれども、色々なところで策定計画をお作りになっていて、鎌倉に呼ばれて鎌倉で作るのだから、やはりこの街ならではのものを作りたいという思いが足立先生にはとてもおありになったというふうに感じました。

それがこれを4つにこういうふうにしたら大変でしたね。それをこのリーフレットに出して頂ければという事を大竹委員におっしゃっていただいて良かったと思います。何かそういうのを入れていただきたいなと思います。それから、大竹委員があと市民活動というのがとても盛んでという事も仰っていただいて、それも実は去年の作成のところで凄くその所を重点を置いてこういったものを作ったと思うのです。やはりそういう部分も、もう少しリーフレットの中に活かしていただけたらいいかなと。去年の事は忘れてしまうのですね。でもそ

ういうふうな時に仰っていただくと、やはり全く新しく見てもそういうふう
に思っているというの、やはりそうなのだなというふうに思ったの
です。

会 長 ありがとうございます、他にございますか。いくつかのご意見が出たので、
このリーフレットに関しては業者に委託する時間も必要であるので、本日この
場でご意見を頂き皆さんから託された案を事務局の方で一度取りまとめて頂き
まして、それではメール等で修正部分を反映させて委員の皆様にお示しし、
決定したいと思っておりますので後は事務局と委託業者にお任せする事でいい
でしょうか。ではそのようにさせていただきます。

それではここで中盤に事務局から鎌倉食育推進会議の役割として、各立場か
らの代表として作成した推進計画の進捗状況を把握・点検し進捗状況に応じた
計画の見直しについてご意見をいただくとしまして、その事他に市民・各事
業所の方々がそれぞれの取り組みを実行していただき鎌倉の食育を推進してい
ただき為に、市民と事業所・異業種同士の事業者が共同・協力し、新しい動き
を生み出していく為の場としてPRの場を作ってください、この会合を担ってい
ただきたいというふうに思っております。

そこで本日はせっかくでございますので、委員会の皆様方がそれぞれの立場
から食育をどのように思っているか、少しフリートークで話を進めてい
きたいと思いますがいかがでしょうか。時間もあと予定では30分残っているの
ですが、今日は8時から電気が切れて、天の川を見ましょうというクールア
ースというのを政府が呼びかけてらっしゃるので、ちょっと10分か15分くらい
一つフリートークでお話したいと思うのですがいかがでしょうか。

今パンフレットなどの話等も出てきましたが、折角参加していただきました
からお一人一言ぐらいはお話していただきたいと思うのですが。

塚田副会長 何か途中から参りまして乗り切れなくて申し訳ございません。策定委員会
が去年から検討を始めまして、こうして立派なものできたのですが、一番
大切なのがこれをどうやって具体的に推進するかということで、いつも本当に各
地方自治体で立派なもの掲げているのだけでも、そこで実際一歩足を出して推
進していくというところが今まで実行できていなかった。というところが一番
の問題点なので、是非鎌倉市では各それぞれの分野のエキスパートにお集まり
いただいているので、自分のレポーターではこういう事が鎌倉市としてでき
るよ・やりたいよ、というような提案をやはり是非具体的に皆さんが述べ合っ
て、そして積極的にそれを一歩進めるのにどうしたらいいかというところに持
っていかないと、頭でっかちにばかりになっているのですが、それを具体
的に、ではどうやってやるの、そしてまた各一人一人の市民の本当にみんな「あ
っ、そうだね」と参加していただけるような形にするにはどういう風にしてい

けばいいのか、というところの糸口をこの推進会議で皆それぞれの立場でフリートークするのが一番いいのかとっております。

それでわたくし鎌倉女子大学の一員といたしましては、食育科で一応だいたい前からやっております、そういった中で本当に私達は当たり前と思っている事が一般の人達にとっては、また、小さい子にとっては当たり前でない事であったり、そういう事をやはり本当に正しい知識というものが応用できる知識ですね、ただ知識だけの知識ではなく、それが日々の食生活に繋がっていくような良いカレッジの内容を盛り込みながら皆さんに接していく。その部分を鎌倉女子大として担うのが妥当なのかなと思ったりしております。

色々講演会だとか食育指導の話だとかするのですが、一番どこで引っ掛かっているかという一歩が出ない、というような事です。食育というのはだいたい「なーに」という事は分かってきている気がするのですが社会的には、なかなかそれを、ではどうして一歩進めたらより良いものになっていくのか、というところの一歩がなかなか出ないのが現状だと思いますので、この一歩を各食育の方々から「こうしたいんだ、ああしたんだ、こうしたら鎌倉は変わっていくよ」というような事を具体的にお話していただけたらなと、そういうふうに思っております。

会 長 はい。何か他にご意見いただけたら。

会 長 正しい食べ方がどんな食べ方なのかはまだ実は栄養学の上では分からないのです。つまり人間がどのような食事をしたら、健康に一番いいのかというのは永遠のテーマなのでして、まだ結論が出てないのです。偏った食事は良くないという事は分かるのですが、しかも正しい食べ方を教えるという事はまた難しいですね。栄養学の知識のある人は何となく、例えば緑黄食野菜にはビタミンとかミネラルが多いから緑黄食野菜を食べましょう、という話をすればいいのです。ビタミン・ミネラルが分からない人とか、緑黄食野菜が分からない人、さらに栄養学を知らない子ども達にどうやってその事をメッセージにするのか。アメリカで昔、ほうれん草を子ども達にどうやって食べさせるかというので栄養学者が議論したのです。そしてアメリカの栄養士達が考えたのはポパイを作ったのです。

日本はポパイというのは娯楽番組で紹介されたが、あれは食教育の漫画なのです。とても単純なストーリーからなっています。オリーブというのがブルータスにいじめられて素手では負けるのですが、ほうれん草を食べた後はポコッとこぶができて力強くなりオリーブを助けるという、単純なストーリーを何万回と繰り返すのです。あれでアメリカの子ども達がほうれん草を食べ始めたといわれています。ああいう発想は、なかなか日本の専門家にはでてこないですね。ほうれん草食べさようと思ったら必ずビタミンが多いからという話をしてしま

う。

ちょっと深刻な話しをさせていただきますと、例えば認知症になったお年寄りに、どうやって正しい食べ方を教えるのかとか、精神障害を起こしている人にどうするのかとかと同じような話です。だから子どもに正しい食べ方を教えるというのは、何か簡単に考えるようですが、実はとても難しいのです。これはこれで出して、実際に現場にいらっしゃる人達、子ども達やお年寄りの周りにはいる人達がもう少し現場に即した分かりやすい教育媒体を作っていくというのがいいような感じがします。ご意見ありますか。

柿澤委員 先ほど塚田委員からお話ちょっとあった、具体的に僕も前回やっていて、もうそろそろ何か結果という訳ではないのですが、出したいと思って、またお引き受けしたのですけど。さっきも食育クラブの方とお話したのですけれども、今までは傍目に、ちらちらと見てきたのですけれども、まだ食育クラブそのものを我々は知らなかった。ここでご一緒した訳ですから、我々事業者で何とか食育クラブの方達と連携して、この食育を上手く進められないかと。我々はその時話したのですけれども、けんちん汁ではないですけど、こだわるわけではなくて鎌倉の料理というものをこれから作らなければいけないのではないかと、そういう具体的なものまでやろう、という事で終わったのですけれども。

それなら食育クラブの方達が専門家もいらっしゃいますから、そういった事があり鎌倉にあったフードをできれば何か具体化できないかなというふうに思うのですけれども。

会 長 色んな領域から来てらっしゃるのが特徴でありまして、他にございますか。

藤本委員 この推進計画を拝見して思ったのですけれど、乳幼児とか学童期の子ども達の現状というか、それはだいたい予想できてきて。それと一緒に高齢者というのも、今はどんどん高齢化社会ですから、さっきも申し上げましたけれども、もう一回その独居老人とか家族の中にあっても 1 人の孤独が増えているという現状を捉えて、どういうふうにそういう方達にこの食育をアピールしたりまた手助けしていくかとは、とても大切な問題だと思うのです。

それと、今回この資料を見せていただいて本当に感じたのは、青年期の人達の健康状態というもの。これにも一番左下に書いてありますけれども、健康診断で異常ありと要注意・要観察というのが 50%、半分以上になっているのです。結局この 20 代・30 代の男性というのは将来親になるというのですか、将来を担っていく役目を持っているわけですから、こういう青年期に向かっている人達に対してもアピールするというのは、生活時間がこちらにも出ていましたけれども乱れていますから、こんなの配ったところで「そんなの知らねーよ」と言われそうなのですけれど。

一つ去年、案の中でその世代に即したアピールの仕方としてメールとか携帯

のサイトでアピールしていくというのがありましたけれど、50 ページですか。そういうアピールの仕方でもこうではなかったらいいのではないかなと思いました。

会 長 ありがとうございます。他にございますか。

塚田副会長 青年期の、特に女子大生などは非常にブラックリストのナンバーワンかも知れないですけども、ダイエット、ダイエットと称して朝も食べてこないという、そういう学生さんが非常に多くて。大学で上手く学生食堂みたいな所にテーブルごとにリーフレットを置く学校、豆知識のスタンドを置いて、なるべく朝食を食べる事にしましょうと。とにかく時間が無い、食欲が無いという事をどうやって解決するか。簡単バランスレシピを毎週毎週紹介して、食堂の上に置いておいたら少しばかりは色々な管理栄養学科だけではない学生さん達も毎回見ていれば少しはこういう事するのかという事を始めようと言ってやっているのですけど。

それを外食店の皆さんも、テーブルの上にそういった簡単メモみたいな、そんな少しアピールするような。本当に簡単でいいのですね、大変なものはゆっくり見ないと分からないので、こうお食事が運ばれるまでに、こうやってこう食卓で食べたならこうやって見ますよね。そういうような事を利用して何か今問題な事をちょっとずつアピールしていく。例えば、特定給食施設などもそうだと思うのですけれども、毎回毎回同じ人達・社員が来たり、色々学校だったら子ども達が来たりという。特定なので、それを 2 週間ごとに情報を変えてやっていくとか。そのような事で少し改善できないかと、具体的な事を考えているのですけれど、なかなか。そんな事を私色々な食堂でそんな事を実行してみたら鎌倉は変わるのではないかなと、そんな夢もちょっとあるのですけれど。

会 長 他にございますか。

牧田委員 今塚田先生がおっしゃっていらして、こちらの意味も同じですけど飲食に携わっていると、そういう部分って、そういう事ができるのかなと思ったのですけれど、一つは女子大生とおっしゃられましたけれども、学生のうちはまだそういう括りがあるのだと思うのです

私は息子ももう随分大きくなりまして働いております。そうしますと男の子って若い人は肥満が問題になったりすると、やはり朝から夜までがんがん働かされてしまいますわけで、20 代後半とか。情報は食に対して非常に興味があるのですね。グルメ番組ばかりですよ、TV とか見ますと。でも、B 級グルメでガッツリしっかりみたいな、そういう物が若い男の子は大好きで、ラーメン屋さんとか焼肉屋さんとか、という所ばかり行くわけですよ。どちらかと言うと比較的健康的な定食をきちんと出しているような所はあまり若い男の子は好まなくて、その辺はもう縛りが無いのですね、そういう人達。親の言う事もあま

り聞かないですし、本当に家庭で食べるチャンスというのが増えれば勿論あれですけれど。

でも、家庭で増えるチャンスがあって、そういうものを出したとしてもがっつり食べないと気が済まないコンビニに夜行ってまた何か買って来て食べてしまったりするのですね。あんまり口煩く言うと、そんなに早く食べてはいけないのではない、とか言うと、もううちは too late かなと思っているのですけれども、嫌な顔をされてしまったりするのですね、それは凄く残念だなと思うのですけど。やはり若い男性をどうやってそういう部分に興味を持たせるかというのは、なかなか難しいかなと思うのです。実際に食に興味が無いわけではなくて「美味しんぼ」とかコミックとか物凄く売れているわけで、食にはとても興味があるけれども、正しい栄養学的な知識というのはなかなか持つチャンスがなかったところが問題で。それをその世代に向かってどういうふうにしていく事ができるかというのはとても難しいなと思います。

それからもう一つは、飲食店や生産事業者の栄養成分表示の事なのですけれど。私どもの店では昨年度は保健福祉事務所のアライさんにお手伝い頂きまして、栄養表示をしましょうという事をさせていただきまして、とてもありがたかったです。それで 2 年ほど前には製造業もやっていましたので、そちらの方でもお手伝いしていただいたのですけれども。やはりきちとした栄養士がいるわけではないので、非常に難しいのです。お手伝いを頂いて、その時にやるか、年度事業だから仕様が無いとも思うのですけれども、非常に駆け足だったのです、指導して頂いたのが。担当のアライさんが熱心でしたし、うちのスタッフも一生懸命やってくれました。何品かはそういうものできました。

でも、今度独り立ちができるかという、そう簡単にはできなくて。その辺も含めてその辺りをもう少し 1 回指導受けたからもう終わりというのではなくて。事業者の方から要請がありましたらそういう栄養士さんの相談の窓口のようなものを定期的に頂けたらとかと、そういうふうに凄く思うのですね。

昨年やってそれでできたかっていうと、一つメニューをやると後はまだ完成できないのですね、本当にお恥ずかしいのですけれども、ですからそういう部分の連携とかがもう少し密になっていくと違って来るのかなと思うのですけども。

会 長 ありがとうございました。

大竹委員 いいご意見ありがとうございました。また参考にさせていただいてどうぞご相談があればいつでもお待ちしておりますので。

会 長 時間があまり残されてないので、なにか特にご発言ございますか。

富田委員 先程先生の方から子どもに正しい食を教えるのが難しいというお話があったのですけれども、私どもの保育園で言えば凄く簡単な事なのです。というのは

保育園に来ている子ども達はまだ何にもない状態で来ていますから、給食と一緒に食べる時に先生が「美味しいね」と言って食べればそれでも美味しいのです、子どもは。

だから逆にやはり保護者にどうやってそれを教えていくかというのが凄く今大変なところで、子どもは素直ですから、とにかく食べるのが好きな先生のクラスはよく食べますし、あまり好きでない先生のクラスというのはあまり食べない傾向にやはりあります。だからここにも共有とか共食と書いてありますけれど、本当にその通りで子どもとは共感しながら育っていくのだと思うのです。

子どもだけでなく人間は共感して育っていくものだと思うので、昔から「同じ釜の飯を食う」というのはそのこのところなのかな、というふうに思うのですが。

会 長 三歳までインプリンティングというのが起こると言われているのです。それでこんなに同じように食べていて、好き嫌いが起こる。それをまたテレビ番組で面白おかしく、偏食を正当化するような番組を流しますよね。だからそれは是非子どもの時に何でも食べられるというのが大事なのではないかな、と教育できればよいと思っています。

時間が来ましたので少しまとめさせていただきますが、充分発言出来なかった委員もいらっしゃるかと思いますが、これから 2 年間ありますから色々議論を進めていきたいと思っています。食育というのは健康の問題とか、食事に感謝するというような教育の問題、あるいは安全安心の食品の問題、そして自給率が低いという食糧の問題、そしてまた環境の問題と多方面に広がっています。食育活動と言うのはこのような非常に広範囲な領域を含んでいるということに特徴があるのです。これを食育基本法という国の基本法にした国は実は世界中無いのです。この食育基本法を外国などに紹介するととても興味を示します。よくこんな法律ができたというくらい驚きます。例えば厚労省の中で健康づくりの法律はあるし、農水省が食糧の安全供給に関する法律はあります。でもその省を飛び越えて文科省も厚労省もほとんどの省庁が合意した基本法はありません。だからこれがどういうふうな展開していくか諸外国が凄く注目している訳です。例えば、環境問題は食糧とリンクしています。アジアの人達が農業をやりながら自然と一緒に、自然と調和しながら生命を繋いできたという、アジア人の発想は大事なのではないのかと思っています。欧米の肉食文化というのは草原に牛や羊を放牧して、緑を食べさせてその牛を殺して生存している、だから環境と対立関係にあるのです。

アフリカの砂漠は元は砂漠ではなくてヨーロッパ人が牛と羊をアフリカに入れたからアフリカが砂漠になったというお話があるくらいです。アジア人のように自然環境と調和しながら生きてきて、これからも生きていくという考え方

というのは、世界に提案すべきだと、僕は思っているのです。そういう事で今回は鎌倉で作られました食育推進計画を今後じっくり読んでいただき、これに取り組んでいただきたらと思っております。

皆様方、各所属団体などで充分考え、積極的な活動に進めていただければありがたいと思っております。では事務局の方から何かございますか。

事務局 行動計画ですが、各団体・事業者の方々に行動計画を作ってくださいというのはなかなか難しい事ですので、これから取り組んでいく事や、既に取組んでいることがございましたら、FAX またはメールでお知らせいただければ、市民健康課のホームページやお配りしました食育クラブのかまくら食育通信などに、事業者・利用者の方々の活動内容について掲載し、市民に方々お知らせしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

会 長 ありがとうございます。各団体におかれましてはなかなか難しいとは思いますが鎌倉の食育を推進していく為に皆様方のご協力を是非よろしく願いしたいと思います。では、次にその他でございますが、事務局から何かございますか。

事務局 はい、では次回の開催日について調整させていただきたいと思っております。

< 日程調整 >

会 長 では次回は大変離れておりますが、1月19日6時半からこの会場で行いたいと思っております。他に事務局から何かございますか。

事務局 ございません。

会 長 それではこれで食育推進会議を終わりたいと思っております。ありがとうございます。